健康寿命延伸住宅（芙蓉ディベロップメント㈱）テーマ：健康管理の支援

背景　科学的根拠がある「健康住宅」の必要性

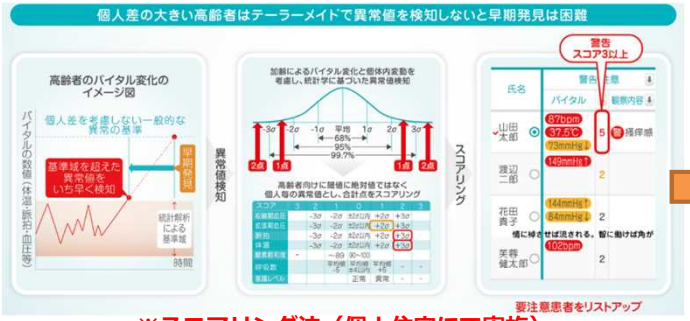
・我が国は超高齢社会となり、科学的に効果が認められる「長く健康に暮らせる高齢者住宅」「効果的に見守れる高齢者向け住宅」が求められている。
その為、サステナブル建物等先導事業で開発・検証した『健康寿命延伸住宅』の普及促進、及び利用者の声に基づく利便性向上、その効果の検証を行う。

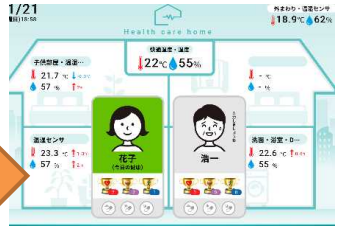
目的　健康状態悪化の早期発見と重症化予防＝『健康寿命延伸』

・住まいにおける日々のヘルスデータを継続的に収集し、蓄積されたデータから各個人ごとのバイタルデータの変動幅（個体内変動）の分析を行い、特性のある異常状態を自動検知し、スコアリングして表示することで、対象者に健康悪化への注意喚起をするシステムを搭載する。
・日常生活空間における住宅での温熱環境・バイタルスコアの関係性から自分に合った健康空間を見つけ出す。

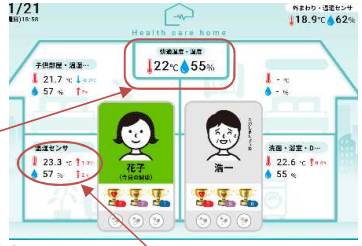
実証内容

①居住者の血圧低下効果、及びバイタルスコアリングAIの精度検証
②商品の使用感・コスト感に関する意識調査
③供給側の理解度や普及に向けての課題





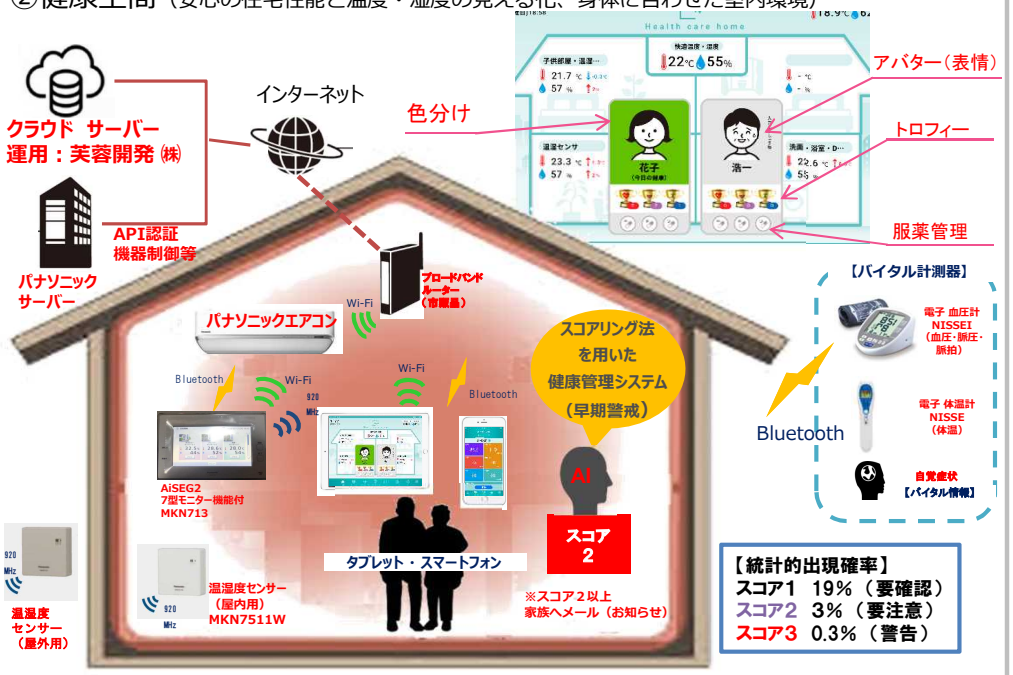
※スコアリング法（個人住宅にて実施）



温湿度パネル
快適環境外の場合温度・湿度横の矢印部分が赤・青に変化して、快適環境外になっている事を知らせます。

概要

①健康管理（見える化・簡易化・共有化）新モニター画面・家族の健康情報（アバター・色分け・スコア（数字）で見える化）・自分の服薬管理
②健康空間（安心の住宅性能と温度・湿度の見える化、身体に合わせた室内環境）



目標

①2023年度目標
パナソニックビルダーズグループ（全国に400社）に対して「健康寿命延伸住宅」の販売促進の為、案内動画・案内資料を作成し営業活動を実施。必要に応じて現地勉強会やWEB相談会を実施し20棟の契約を目指す。
②2024年度目標/2025年度目標
引き続き販売促進を図り、２０２４年度30棟/2025年度30棟の契約を目指す。データの収集・検証を開始
③2026年度目標
データの収集・検証を開始。ユーザビリティアンケートの回収・検証の実施

実証体制

システム提供：芙蓉ディベロップメント㈱
システム開発：芙蓉開発㈱
供給分担・協力：ﾊﾟﾅｿﾆｯｸﾋﾞﾙﾀﾞｰｽﾞｸﾞﾙｰﾌﾟ
分担機関窓口：ﾊﾟﾅｿﾆｯｸｱｰｷｽｹﾙﾄﾝﾃﾞｻﾞｲﾝ㈱

連携

医学的データ分析：（医）芙蓉会
環境データ分析：慶應義塾大学